

イレッサ訴訟

「ごめんねと言っただけ」 遺族「不当判決」と涙

800人以上の副作用死が報告されている肺がん治療薬イレッサを巡る企業、国の対応が問われた訴訟で15日、東京高裁は両者を免責した。「不当判決」。東京・霞が関の裁判所前で掲げられた紙を見ながら、愛娘を亡くした原告の男性は涙を流した。【野口由紀】

「安心安全な薬だと思っ、飲んだのに。悔しい」。次女三津子さん(当時31歳)を副作用の間質性肺炎で失った原告の一人、近沢昭雄さん(67)は「三津子さんは承認後間もない同8月から服用を始めた。医師から検査で「イレッサが効いているよ」と声を

「闘う決意新た」
西日本訴訟原告 大阪高裁で審理が続く西日本訴訟に、唯一の生存原告として参加している清水英喜さん(56)は東京高裁判決後に

かけられ、三津子さんが「ごめんねと言っただけ」の思いを問われると、「三津子にはごめんね」と目を真っ赤にした。遺族側弁護団の水口

の存在をインターネットで知ったのは承認前の02年春。「副作用がほぼない夢の新薬が出るとあり、期待を募らせた。がんを患っていた三津子さんは承認後間もない同8月から服用を始めた。医師から検査で「イレッサが効いているよ」と声を

東京都内での会見に出席し、「到底受け入れられない。本日の判決はこの国に正義がないと宣言するに等しい。判決を放置できない。闘う決意を新たにしたい」と述べた。【刈田伸宏】



東京高裁判決後、東京高裁記者クラブで15日午後3時40分、久保玲撮影

を早く収めたい」。今では副作用死は減り、一定の意義も感じる。だが報道陣から判決への思いを問われると、「三津子にはごめんね」と目を真っ赤にした。遺族側弁護団の水口

虐待容疑で母再逮捕

足立3人死亡火災 長男骨折させる

東京都足立区の自宅に放火して家族を死傷させたとして殺人容疑などで逮捕された石川昭子容疑者(28)が、事件の約2週間前に長男(2)に暴行を加えて重傷を負わせた疑いが強まり、警視庁捜査1課は15日、傷害容疑で再逮捕した。

8カ月十分食事に

春日部虐待死 埼玉県春日部市で5歳の男児が死亡し、同居している父と叔父が暴行容疑で逮捕された事件で、県警は15日、十分な食事を与えず栄養不良にしたとして、

長男はけがが原因で入院し、火災当日は自宅にいなかった。長男はこれまでも病院に連れて来られたことがあり、捜査1課は以前から暴行を受けていた可能性があるという。

【内橋寿明、小泉大士、喜浦遊】 今回の放火事件以外にも、石川容疑者が過去4年間に少なくとも計4回、自宅のゴミや